# 令和５年度　輪之内町立輪之内中学校　　自己評価書

| | |
|---|---|
| 学校の教育目標 | 「ひとりだちのできる生徒」　～自ら考え、よりよく判断して主体的に行動する生徒～ |
| 経営の重点 | ・認められている安心感　・学び合っている充実感　・成長できた達成感 |

| 町の重点 | 評価の窓 | 評価 | １２月までの成果 | １月及び来年度以降の課題と改善策 |
|---|---|---|---|---|
| 【学校経営】<br>全教職員が協力して活力ある学校経営をする。 | 勤務の適正化と教職員が健康でやりがいをもてる経営地域との連携による学校づくり | B | ・勤務時間が遅くなることもあったが、自分でタイムマネジメントができる人が増えてきた。学年での結びつきが強く連携して進められていた。<br>・総合的な学習において、町役場や地元企業と連携して授業を行うことができた。<br>・全職員が報・連・相を意識し、取り組むことができた。ささいなことでも全員が協力しようという雰囲気を作ることができた。<br>・それぞれが自分の役割を果たしつつ、何かあったときには全員で対応することができた。<br>・職員同士の素早い情報共有や迅速な行動をすることができた。職員で仕事の分担をすることで幅を広げ、働き方改革に繋がった。<br>・今年度初のステージ制で、その都度目標や流れを確認しながら進めることができた。 | ・勤務時間の適正化を更に進める。学校の日課にある隙間時間や移動時間の見直しを進め、下校時刻を早める。<br>・役割分担を明確にし、計画を早めに行い、見通しを持つことができる提案を行う。<br>・生徒の中から学級、学校の改善案が出てくるような主体性を持たせること。生徒に学級のことを考えさせる、語り合わせる場や時間を充実させるような場や時間を仕組む。<br>・さらなる勤務時間の削減に向けて、今日やらなければいけないこと、後日でもよいものの判断をしていくこと。 |
| 【研修】<br>自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。 | 研修主事を中心とした組織的・計画的な研修の実施 | C | ・全校研究授業では、ICTを活用し、主体的・対話的で深い学びを進められた。<br>・教材研究を通した、具体的な手立てを考えることができた。<br>・自分だったらどうするか、他教科の研修でも技を盗むことや自分の教科で利用できるものを考えることができた。<br>・教科担任制であるが、他教科の実践から自分の教科に活かすことができるヒントなどを得ることができた。授業研はやはり学ぶことが多い。 | ・確実な学びを進められるよう、ICT活用の方途を探っていく。終礼において輪番制で授業で活用したICT方法を紹介する。<br>・研修主事が行った研修を実践につなげられるように、研修時、具体的な行動目標を立てる。<br>・積極的に発言することや幅広い職員間で聞いたり指導してもらえるように努めること。<br>・職員会等を活用したミニ研修を位置づけたり、授業を見合う機会を多くする。 |
| 【教科指導】<br>基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。 | 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 | B | ・ペア学習やグループ学習において教え合い、励まし合いを進めた。その結果、仲間の助言により、技術が向上した姿が見られた。<br>・昨年度の授業を改善し、本時身につけたい内容を明確にした。<br>・授業の最初に復習の時間を取り入れたり、交流の時間を位置づけることでお互いに学び合う姿勢を伸ばすことができた。<br>・積極的にICT機器を使って、教科指導することができた。 | ・必然性のある課題を設定し、生徒が主体的・対話的に取り組めるようにする。<br>・自分の考えを表現するところに弱さがあるので、表現、語ることのできる場を設ける。<br>・生徒自身が自分の言葉で自分の思いを語れるように、教科の中でも話す指導をする。 |
| 【道徳教育】<br>自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。 | 生き方（命の大切さ）についての考えを深める道徳教育の充実 | B | ・私だったらどうするのかを常に考えさせること。また、様々なニュースや学校生活の出来事も活用して日常的に命の大切さを考えることができた。<br>・生徒が自分の意見を発言できるようになってきた。<br>・道徳の資料から、自分の生き方を振り返らせ考えさせることができた。<br>・「ひびきあい集会」等で命の大切さについて考える時間がありよかった。 | ・人権的に見逃せない言動をやめさせる。現状、そうした言動があった際に、静止・注意する動きがあるので、それを継続、広げていく。<br>・思いだけではなく、行動にうつせるような指導の工夫。その行動の価値付けていく。<br>・短学活を使って、随時生き方や命の大切さについて触れていく。 |
| 【外国語教育】<br>外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。 | 主体的にコミュニケーションを図る姿が具現される指導方法等の工夫 | B | ・ALTへの親しみが深い。英会話に取り組みやすく、意欲的に取り組めていた。また、外国語に関わる機会がしっかりと位置付いている。<br>・会話活動の機会を増やし、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。<br>・中2における「カナダ研修」では、派遣生徒はどの子も主体的にコミュニケーションを図る姿があった。 | ・視覚的に英語に親しむ。掲示の中に英語や英会話があるものを取り入れていく。<br>・英語が得意な生徒だけでなく、苦手な生徒もコミュニケーションを図る力をつけられるような指導方法を工夫する。<br>・構文や文法に縛られず英語で楽しくコミュニケーションをとることを大切にする。 |
| 【総合的な学習の時間】<br>探究的な学習を通して、よりよく問題を解決する資質・能力を育てる。 | 「ふるさと輪之内」に学ぶ態度と輪之内を愛し誇りに思う心を育成する探究活動の充実 | C | ・地域の人材や企業などを積極的に用いた学習を行うことができた。<br>・防災士講座、職場体験など多くのことに対して生徒が意欲的に活動できた。<br>・修学旅行で職業について学習する機会を持つことができた。<br>・職場体験先について、学校運営協議会の方や学年の先生で発掘をされて、一人一人が希望する職場への体験が行われ、生徒たちの貴重な体験となった。 | ・ふるさと輪之内への愛着を高まる総合的な学習の工夫。<br>・コロナ明けの職場体験だったため、事業所への連絡等を1から行うことになり時間がかかった。来年度は夏休み中に行うなど計画的に進める必要がある。<br>・中学3年間を通して、「環境問題」や「防災」など、学んだことが継続される取組にしていくため、年間カリキュラムを見直していく。 |
| 【特別活動】<br>所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 | 望ましい人間関係や学級集団としてのまとまりを育てる学級経営の充実（ＱＵ検査の活用） | B | ・毎日仲間の良さを発表することで、所属感が生まれた。<br>・QUや心のアンケートや学校行事を通して、望ましい人間関係を築くことができた。<br>・コロナ禍が明け、学校行事が再開する中で、日常と行事をつないで成長する姿が多く見られるようになってきた。<br>・宿泊研修先での学級毎の振り返りの場面で、一人一人が自分の思いを語れた。 | ・担任が一人で抱えこむことなく、学級経営を進められる組織の構築。課題を共有し、ミニケース会議を進める。必要に応じ、臨機応変に学年職員にかかわらず関係職員も検討に入る。<br>・各ステージの意味の理解を教師と生徒がとともにし全体の方向性をつくる。<br>・生徒の動きについて教師の共通理解の場を設け生徒会活動を活性化する。<br>・生徒が集会等全体の場で話す機会をつくる。 |
| 【生徒指導】<br>共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。 | いじめ・不登校・自殺等の未然防止と早期発見・対応の強化<br>SOSの出し方教育の推進と相談体制の強化 | B | ・担任だけでなく相談員、スクールカウンセラー、支援員、相談室の活用など相談体制の充実が見られた。<br>・いじめは絶対に許されることではないことの徹底。それに近い言動の迅速な対応ができた。<br>・心のアンケートを通して、生徒の抱えている問題に早く気づき、対応することができた。<br>・問題行動等の発生時に、聞き取りなど協力して解決に向けて、多くの職員が協力して対応できた。 | ・一人一人への温かい言葉がけを大事にして、安心感をつくる。<br>・不登校対策として相談室経営やケース会議の充実を図る。<br>・いじめ未然防止に努め、学級内での居場所づくりができる活動を工夫する。<br>・保護者との連携を密にする。 |
| 【キャリア教育】<br>社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。 | 勤労観・職業観を育成する体験活動の位置付けと事前・事後指導の充実（キャリアパスポートの活用） | C | ・職場体験を通じて、勤労について自分なりに考えることができた生徒が多かった。2年生の職場体験が復活し、「働くこと」にしっかりと触れることができてきた。<br>・郡上研修で、森林関係の仕事など様々な働く人々と交流できた。<br>・キャリアパスポートにステージ毎に自分の目標や中間振り返り、ステージ振り返りについて記入する時間を位置付け、目標を持って生活できた。 | ・進路指導について調べ学習や講話などを取り入れて実践的な学びを進める。<br>・職場体験での事前事後での電話連絡やお礼の手紙など礼儀について、他の場面でも活用できるようにする。<br>・キャリアパスポートの活用方法について、よりよい形式に改善を図る。 |
| 【健康安全教育】<br>運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を営む態度を育てる。 | 感染症対策を講じた上での、体力向上のための取組<br>自ら命を守りきる防災意識を向上させるための指導方法や指導体制の工夫改善 | B | ・体育の授業において、記録の向上など仲間と共に運動に励むことができた。<br>・感染症対策への意識を育てたり、怪我や事故防止の啓発をすることができた。<br>・命を守る訓練を実施でき、職員や生徒の動きが確認できた。 | ・命を守る訓練で、いろいろな状況での避難行動について考える場を今後も設けたい。<br>・感染症予防として、継続して換気を徹底する。<br>・防災意識を向上させるためにも、啓発に努める。<br>・隔年実施のこ小中引き継ぎ訓練による連携を図る。 |
| 【特別支援教育】<br>一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。 | 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内支援体制づくりと合理的配慮の構築 | B | ・個に応じた指導法を取り入れ、支援員の先生と協力して指導することができた。<br>・保護者と連携を図り、一人一人の対応を考え進めることができた。<br>・校内特別支援委員会や教科担任会などで、教育支援について見通しをもつことができた。 | ・個別支援を要する生徒について、支援方法などを全職員で共通理解を図る。<br>・個々にあった手立てを考え分かる授業を進める。<br>・家庭との連携を図るため、保護者やコーディーネーターと懇談をもち対応していく。 |
| 【人権教育】<br>自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。 | 児童生徒と全教職員が一体となったいじめや差別を許さない学校・学級づくり | B | ・仲間のよさを認める帰りの会や学級での活動が進められた。<br>・日頃からの声かけを中心に、未然防止に取り組むことができた。<br>・心のアンケートを活用して、なるべく生徒と直接話ができるように工夫している。<br>・いじめ、差別のない学校作りに励んでいる。<br>・生徒指導対応は組織的、早期対応がなされている。 | ・職員が率先して暖かく丁寧な言葉遣いをすすめ、生徒と関わる日常生活で見本を示していく。<br>・「輪中人権宣言」を年度当初に確認する場をもち、生徒にも意識をさせていく。<br>・継続して教師の人権感覚を磨くとともに人権感覚を養う研修を行う。<br>・思いやりに欠けた言葉遣いが時折見られた。 |
| 【ICT教育】<br>児童生徒の情報モラルを高め、情報社会に対応できる情報活用能力を育てる。 | ＩＣＴを有効活用した学習活動の充実（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実） | B | ・授業の中で、タブレットの活用が定着してきた。<br>・タブレットの利点を活かした授業を実践することができた。<br>・多くの職員が様々な場面でICT機器の活用を行えた。<br>・情報モラル講話は大変生徒にもよく分かる話でした。 | ・ICTを活用することで個別最適な学び、共同的な学びの充実を図る。視覚的に学習理解が進む方策を探る。<br>・情報モラルについて、学活や道徳で計画的に行い意識の向上を図る。<br>・間違った使い方をしないような働きかけを今後も続けていく。 |
| 【学校関係者評価】 | ・アンケートで「学校へ行くことが楽しいと思える」と応える割合が昨年よりも増えている。めざす学校像『「今日も楽しかった。また明日も来たい」と思える学校』の具現を図った成果の一つであろう。<br>・自己肯定感の低さが課題である。向上に向けて、肯定的な見方を大切にしながらよさをみつける手立てを打ち、生徒自身が自分のよさを自覚できるようにしていきたい。<br>・登下校時の生徒挨拶の様子がよかった。自分から挨拶をする姿が少しずつ増えている。<br>・アフターコロナの中で、ボランティア活動が実施されたりタブレット端末の活用が進められているが、「ふるさと輪之内」を愛し、誇りに思う教育や、グローバル化に対応する情報教育の推進をさらに進めてほしい。<br>・話し合いの場をより多くもち、コミュニケーション能力を高める取組を行ってほしい。<br>・生徒アンケートと保護者アンケートを見比べるとギャップのある項目がある。保護者との連携を図ることで、生徒の実態をつかんで指導にあたってほしい。 | | | |